

平成27年度空知管内学校図書館活性化研修会実施報告書 学校図書館の効果的な活用や魅力ある図書館づくりについて

学校図書館担当教職員の資質向上や、児童生徒にとって一番身近な図書館である学校図書館の活性化を図ることを目的とした学校図書館活性化研修会を10月28日（水）に岩見沢市立岩見沢小学校を会場に開催しました。

管内の各市町から学校図書館担当教職員や読書ボランティアなど36名が参加し、学校図書館の効果的な活用や魅力ある図書館づくりについて、講義や説明、演習などを通して研修を深めました。

講義「今、求められている学校図書館」

北海道教育大学 非常勤講師 大久保 雅 人 氏

○「読書活動」及び「学校図書館を活用した学習活動」は読解力及び思考力・判断力・表現力を培うために最適なものと考えられ、各学校において学校図書館を活用する学習指導、計画的な読書指導、学校教育活動全般を通じた読書活動をさらに活性化する取組を推進していくことが大切である。

○学校図書館は、「学校教育の中核」として、児童生徒の健全な教養を育成する「読書センター」としての機能、学校の教育課程の展開に寄与する「学習センター」及び「情報センター」としての機能を発揮する。

- ・学校図書館は、児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心を育む「読書活動や読書指導の拠点」であり、児童生徒が自由に好きな本を選び、静かに読みふけることができる「自由に読書のできる場」として機能する。
- ・学校図書館は、学校における多様な学習活動の拠点として、多様で豊富な学校図書館メディア（資料・情報）で児童生徒の自発的・主体的な学習を支援し、図書やその他の資料を使って授業を行うなど、教科等の日常の学習の場として指導に活用する。
- ・学校図書館は、児童生徒に多様で豊富なメディアを提供して学習活動を支援し、「情報活用能力の育成」を行う場として機能し、児童生徒及び教員の学習活動や研修・指導に必要な情報ニーズに応じ、情報を提供する。

○「教員への支援」、「子供たちの居場所の提供」、「家庭・地域における読書活動の支援」など、学校図書館が学校の中や地域の中で果たしている多様な機能をより充実・発展させていくことが必要である。



○本があって、人が居て、更には人との交流が生まれ、お互いが作用し合っている環境が「読書コミュニティ」であると考えます。

○子供たちが本を好きになり、読書に親しんでいくためには「本のある場に居ること」、「本の読み聞かせをしてもらう経験があること」、「本を読み合い語り合う経験があること」が読書コミュニティの環境の中で行われることが必要である。



説明「空知管内の学校図書館における実践事例」

美唄市立東小学校 教頭 加藤 康徳 氏

○昨年7月に道立図書館の学校図書館運営相談事業を活用した。

○ボランティアとの連携

- ・PTA育成部と連携し、破損した図書などの修繕を行った。
- ・地域の読書ボランティアと連携し、読み聞かせや人形劇を実施した。

○図書委員会活動では、ハンガーでブックスタンドを作るなど展示の工夫を行った。

○青年会議所など地域の団体から図書の寄贈をしていただいた。

○小学2年生が生活科の中で市立図書館と連携している。

○図書室を改善することで、児童からは「明るくなった」「図書室が広くなった」「もっと本を読みたいと思った」などの声が上がっている。



説明・演習「魅力ある学校図書館の運営について」

北海道立図書館総務企画部企画支援課 企画主幹 中田 こそえ 氏

1 学校図書館の環境改善リニューアルのポイント

○図書を更新する

- ・「表紙が古くて、白っぽくなっている」、「ページの抜け落ちや落書き、破損がある」、「データが古すぎる」など、内容が古い本については、学校図書館図書廃棄基準を参考に書架から除いていく。
- ・除架資料を見直す場合は、できるだけ複数の職員で作業を行う。

○ディスプレイを工夫する

- ・表紙を見せて並べるなど、本を手に取りたくなるような並べ方にする。
- ・先生や友達の「おすすめ本」を展示したり、図書だけでなく、関連する新聞や雑誌記事など、いろいろなメディアをあわせて掲示したりする。

○表示・装飾を工夫する

- ・入口に開館時間を表示したり、図書館だよりや新聞記事などを掲示したりするなど、分かりやすく、親しみを感じる表示や装飾にする。
- ・分かりやすい言葉で分類し遠くからでも、どの棚に何があるのか一目で分かる大きさで表示する。

○レイアウトを工夫する

- ・読書、授業に使いやすく、明るく安心感を与える本棚・机・椅子等の配置にする。
- ・高書架は壁際に配置し、低書架は中央に配置すると、見通しがよくなり、圧迫感がない。



2 連携・協働する工夫

○まちの図書館（室）との連携

- ・学級文庫用の貸し出し、団体貸し出しなどをお願いする。
- ・学校図書館の環境改善や読書推進事業を協働で行う。

○PTA・ボランティアとの協働

- ・読み聞かせやおすすめの紹介をしてもらう。
- ・図書館内の掲示物作成や本の修理などをしてもらう。



3 演習

岩見沢小学校の図書ゾーンをお借りして、除架する本の選定、本のディスプレイの工夫を行った。

協議「読書活動の活性化を目指した学校図書館の在り方」

グループごとに分かれ、各学校図書館の課題とそれに対する改善策について協議し、情報を交流しました。

課題	改善策
○予算はあるがどのような本を購入していいのかわからない。子どものアンケートや教職員から情報がなかなかあがってこない。	⇒ ○公共の図書館司書と連携を図る必要がある。
○図書館がせまいことやなかなかスペースがない、教職員が忙しくて整理できない。	⇒ ○学校司書や図書委員との連携
○分掌と児童会（生徒会）の委員会にずれがある。（図書係なのに違う委員会を担当している）	⇒ ○担当についてはスムーズな校内体制を進めていくことが大切ではないか。
○図書館自体は整備されているが、本を読まない子どもが多い。	⇒ ○大人が読書している姿を見せる必要があるのではないか。例えば、朝読書では子どもと一緒に読むなど
○開館時間がどうしても制限されている。	⇒ ○学級文庫を充実させることや本をいろいろな場所に置くようにしてはどうか。
○寄贈本の扱いに苦慮している。	⇒ ○子どものニーズや新刊に近いものなどを条件に受け入れてはどうか。何でも受け入れるのはかなり無理がある。

※最後に大久保先生からまとめをいただきました。

- ・施設や人の配置、予算は学校だけでは無理なので、教育委員会との連携を密にしていくことが大切である。
- ・本研修会に参加した方たちのネットワークもこれからも大切にしていく必要がある。



参加者のアンケートから

○講義「今求められている学校図書館」

- ・学校図書館の機能から、現在の学校図書館を取り巻く状況まで広くお話をしていただき、参考になりました。
- ・公立図書館任せになってしまう業務も多いですが、「協働」の大切さがよく分かりました。
- ・学校図書館の在り方を充分に確認することができました。
- ・様々なところとの連携が大切だということを改めて感じました。
- ・学校司書、司書教諭の協働の大切さについてとても勉強になりました。

○説明「空知管内の学校図書館における実践事例」

- ・ボランティアの活用などが参考になりました。
- ・図書の展示の工夫や委員会活動の実践事例が参考になりました。

○説明・演習「魅力ある学校図書館の運営について」

- ・説明がとても分かりやすく、実例をあげていただいたので、自分もやってみようという気持ちになりました。
- ・実際にできそうなものを紹介していただき、とても良かったです。
- ・ちょっとした工夫で興味関心をもたせることができることが分かりました。
- ・道立図書館のアドバイス等を受けて、改善していくことができればと思いました。
- ・まずは図書室の整備、更新、ディスプレイの工夫など、できることからやっていきたいと思えます。

○協議「読書活動の活性化を目指した学校図書館の在り方」

- ・学校ごとにいろいろな悩みや問題点があることを知り、その解決策を話し合うことで考えが深まりました。
- ・他の学校さんの状況を知ることができ、自校では何ができるのか考えるきっかけになりました。